

LINE 問題の現状と高校生の 意識について

調査報告書 Ver1.2

(実施時期 2014.9 と 2014.12)

公開 2015.3

弘前大学「ネット&いじめ問題」研究会

(弘前大学ネットパトロール隊)

本報告書は、スマートフォン全盛期を迎えた中で、無料通信アプリ LINE による様々な問題が指摘される中、その現状を明らかにし、トラブルや被害から子ども達を守るための対策の資料を得るために実施した。

調査データは、2014年9月に実施した2校(以下「前期調査」と呼ぶ)、2014年12月に青森県教育委員会学校教育課の紹介により依頼し、調査を引き受けてくれた4校(以下「後期調査」と呼ぶ)の計6校(以下「全調査」と呼ぶ)である。前期調査と後期調査は、共通質問と別個の質問があるため、報告書は「全調査」で共通するデータを使用し、あわせて本課題と一致する「後期調査」、「前期調査」のデータを取り上げ報告、考察する。

調査の基本的立場は、個別アプリであるLINEを敵視するものでなく、LINEの光と影という見地から問題を捉えている。

目次

第1部	調査について	1
第2部	調査結果のポイント	2
第3部	調査結果報告	4
第1章	ネット利用全体に関する内容	4
第2章	LINEに関する内容	5
第4部	LINE問題の考察	10
資料1	ネット依存尺度と基準表	12
資料2	調査(アンケート)用紙	13

第 I 部. 調査について

(1)調査目的

青少年のインターネット(以下「ネット」と省略)利用の中で最も利用されている端末は、スマートフォン(以下「スマホ」と省略)であり、最も活用されているアプリは無料通信アプリ LINE であることは、各種データから明らかになっている。例えば、内閣府「平成 26 年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(以下「内閣部 2014」と省略、調査日 2014.11)、総務省「平成 26 年度高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査」(以下「総務省 2014」と省略、調査日 2014.1) 等。また、マスコミで報道されるネット被害の中で、LINE に係わるものが多い。これらの状況から、LINE に特化し、LINE 利用率が最も高い高校生を対象にし、問題と課題を明らかにすることで今後の子ども達へのネットリスク教育の啓発のための知見を得ることを目的として実施した。

特に、ネット・ケータイ問題の三側面(①ネットいじめ系、②有害情報・情報発信系、③ネット依存・健康被害系)(2009.大谷)の内、①の子ども達の中で起こっているコミュニケーショントラブル、③の長時間利用によるネット依存に焦点を当て調査、検討をした。

(2)調査設計

①実施時期と方法

前期調査 2014 年 9 月 2 校 調査依頼校回収

後期調査 2014 年 11 月 20 日から 12 月 20 日 4 校 調査依頼校回収

②調査対象校と有効回答数

前期調査 学校の依頼により、学年 1 / 2 程のクラスで、全学年を対象として実施した。

後期調査 青森県教育委員会学校教育課の紹介により調査を依頼し、引き受けてくださった 4 校で実施した。県内 2 行政区の普通科・専門学科、学校の立地が市街地、農漁村地等均等にデータが得られること、また、前期調査の調査校の校種を配慮して調査対象校を選択した。1 年、2 年の全クラスを対象とした。

有効回答数 全データ

	男	女	無効	合計	有効回答数
人数	883	1079	20	1982	1962
割合%	45.0%	55.0%	1.0%		

後期調査

	男	女	無効	合計	有効回答数
人数	610	777	15	1042	1387
割合%	43.5%	55.4%	1.1%		

前期調査

	男	女	無効	合計	有効回答数
人数	273	302	5	575	570
割合%	47.1%	52.1%	0.9%		

学年別 有効回 答数	全調査 人 数	割合	後期 調査	前期 調査
全学年	1962		1387	575
1 年生	892	45.5%	696	196
2 年生	885	45.1%	691	194
3 年生	185	9.4%	-	185

(3)調査内容の視点

1. ネット利用における①利用率、平日の利用時間、②利用端末、③よく利用するコンテンツ・アプリ、④LINE の利用率、LINE 機能利用を明らかにし、LINE 利用の基礎データを得る。——全調査 第 1 章(1)(2)(3)、第 2 章(1)(2)
2. ネット利用と LINE 利用を下記の内容で比較し、ネット利用内に占める LINE の状況を明らかにする。
 - ①ネット利用時間と LINE 利用時間の比較——後期調査 第 2 章(3)
 - ②ネット依存と LINE 依存の比較——後期調査 第 2 章(6)
3. LINE の既読と即レスへの意識(返信時間)——全調査 第 2 章(4)
4. LINE 利用によるコミュニケーショントラブルと利用時の意識——全調査 第 2 章(5)、後期調査 第 2 章(9)(10)
5. LINE の光と影——後期調査(7)(8)、前期調査(7)(11)

第Ⅱ部. 調査結果のポイント

ポイント1 ネット・LINE利用の基礎データ

(1) 青森県の高校生のネットの利用率は**98.8%**、スマホの利用率は**91.2%**で全国傾向と一致。

① 全国調査・内閣府 2014 ネット利用率—高校生 95.8% スマホ利用率—**92.4%**

② 2年前のパト隊 2012年6月調査(「ネット依存傾向の実態と対策・提言」高校2年対象 n534)のスマホの利用率は、**22.1%**、2013年11月調査(「ネット・ケータイ利用調査～ゲーム機を中心として～」高校2年生対象 n534)でのスマホ利用率は**77.0%**、であった。

* 参照—第1章 表1

(2) ネットの平日の利用時間で3時間以上は**24.0% (2.5割)**で、2年前調査(パト隊)より増えていない、また、全国調査の**47.1% (5割弱)**より大幅に下回る(約1/2)。

① パト隊の2012年6月調査(「ネット依存傾向の実態と対策・提言」高校2年対象 n534)で、平日のネット利用時間の3時間以上は**28.8%**。

② 全国調査のスマホのみ利用時間で3時間以上は**39.7%**(ネット全体**47.1%**)で、スマホ使用が利用時間を押し上げている。しかし、青森県では、歯止めがかかっている。

なぜか? 推測—半数以上の生徒のスマホの所持時期が中学卒業後という県内状況のため、多くの生徒の使用開始時の判断力が成熟しており、また、中学までのネットに関する啓発活動や学習により「ネット被害免疫」が形成され、さらに高校入学後の高校側による指導もあり、セーブされているからではないかと思われる。また、保護者にペアレンタルコントロール意識が高まり家庭の教育力が一定程度あるからと推測できる。しかし、3年前に比べ、小中学生のスマホの利用率が青森県でも急速に高まりつつあるので、このまま推移するならば都市型の状況が来るのは時間の問題といえる。ただし、内閣府調査とは調査方法が異なること、また、パト隊調査は、調査対象が2年生のみと1. 2年生の違いはあるので単純に比較はできない。

* 参照—第1章 表2

(3) よく利用するコンテンツ・アプリの第1位はLINE 78.5% (利用率は93.2%)、2位はTwitter 61.3%、3位はアプリゲーム 56.4%、4位動画 53.9%である。

① 内閣府 2014 調査の区分によるコミュニケーションツールの利用率が89.6%で、高校生の9割は、ネットを介したコミュニケーションとなっている。この状況は青森県でも変わらない。

② LINEはスマホ、パソコン、携帯電話等多様な端末で使用できるため、スマホ所持者(1789人)以外も利用している。

* 参照—第1章 表3

(4) LINE機能のトーク(双方向とグループトークを含む)は、LINE利用者のほぼ100%で、LINEのゲームアプリを利用しているものも33.7%、ネット利用者の3割はゲームもLINEで行っている。

① LINEのゲームは、トークグループのメンバーと利用実際を共有できるという特徴があり、「ゲームとトークのつながりはきつい」(自由記述)ことに注視する必要がある。

* 参照—第2章 表4、5

ポイント2 ネット利用内に占めるLINE利用のウエイトは大きい

(1) 平日3時間以上のネット利用者は24.0% (後期調査のみは29.0%)で、その内LINEの利用者は**14.0%** (後期調査のみ)、3時間以上ネットを利用している半数がLINE利用者である。

* 参照—第2章 表6,

(2) ネット依存症(病気)、ネット依存傾向の合計が7.0%。LINE依存症+LINE依存傾向は2.6%で、**ネット依存傾向者の約1/3はLINEが要因**。

①平日におけるネットやLINEの利用時間において青森県は、3時間以上の利用者率が全国よりかなり低かったことから、相対的にネット依存者に占めるLINE利用の割合は少ないと思われる。

②今後スマホの多機能利用とLINEのゲームアプリの利用が進めば、トーク機能との連結が進み、複合的にLINEのつながり依存が進むことが推測される。

③厚生労働省2013年調査、ネット依存傾向は8%。

ポイント3 LINE トークで「外し」等ネットいじめに繋がる不快体験をした生徒は5.9%

(1)LINE トークでネットいじめに繋がるトラブルのタイプと数値は、「排除のいじめ」である、①「グループから外し、外され」**2.8%**、②「自分抜きグループの立ち上げ」**2.4%**、「飼育のいじめ」である③「グループトーク内でのメンバーの悪口の書き込み」**2.3%**で、この三つの内一つでも体験している生徒は**5.9%**。

①この中には、既にネットいじめの段階になっているものも多いと推測される。文部科学省の調査報告で、高等学校のいじめ認知率が0.15%(平成25年度)とは相当乖離している。またこれらのトラブルは、表12のように、**1年生時で約1割弱(9.4%)**であったが、学年が上がるに従い「学習」して減っている。ここには、子ども達の健全性も見受けられる。

* 参照—第2章 表10、11、12

②今回の調査で新ためて認識したのは、グループトーク内の「飼育のいじめ」である。LINEの飼育のいじめは、グループのメンバーから誹謗中傷されても反撃はできず、しかし、グループから抜けることもできない。「既読」で読んでいるか確認されるため、見なければ「なぜ見ない」と攻撃されるし、既読がついたならば「なぜレスしない」と攻撃される。でも、抜けたならば、リアルでの報復が待っているからさらに怖い。したがって、昼間だけの飼育のいじめが、深夜にまで及ぶネットいじめは被害者にとって相当辛いものである。この根拠の一つに、表18、19の「LINEのグループトークをやめたくともやめられなかった」と「その理由」で、「はい」と答えた生徒がLINE利用者の**2割(19.9%)**存在した。また、そこから抜けられない理由で「相手とトラブルになるのが怖かった」が**12.3%**(やめられなかった割合)、LINE利用者に換算すると**2.6%**に相当する。したがって、「排除のいじめ」も含めれば少なくない生徒が、LINE上で今もネットいじめに苦しんでいると推測される。

* 参照—第2章 表10、18、19

ポイント4 LINEの強即レス派は2割、既読スルーに不快派も2割

①通知を受け返信するまでの時間で、30分以内を「即レス」とすれば**51.6%**、強く即レスを求めるものも**2割**。一方「時間があるとき」「気が向いたら」の即レス志向でないものは**48.4%**であり、即レスの対応は、二分されている。

②「既読」されているのに返信がないことに不快を持つ生徒は**2割(20.4%)**で、逆に「返信が早すぎて不快」「返信が来すぎて今自分のやっていることに集中できずにいららする」が合わせて**3割(28.2%)**である。このように既読に対する考え方は、相反している。だからこそ、共生の理念で生徒間の共通認識とルールづくり求められるし、教師の支援で克服できる課題といえる。

* 参照—第2章 表9

第3部 調査結果報告

第1章 インターネット利用全体に関する内容

(1)主に利用するネット端末

*複数回答あり

*分母は有効回答数 1962

表1 *利用者数＝有効回答数－利用していない数

	携帯電話	スマホ	自分専用 パソコン	家族共有 パソコン	携帯音楽 プレーヤー	ゲーム機	その他	利用して いない	ネット利用 者数・率
人数	135	1789	264	700	292	364	21	24	1938
割合	6.9%	91.2%	13.5%	35.7%	14.9%	18.6%	1.1%	1.2%	98.8%

ネットの利用率は、高校生が 98.8%で、全国傾向とほぼ同じであった（内閣府 2014 では、高校生 95.8%）。また、スマホは、青森県の高校生が 91.2%、内閣府 2014 が 92.4%であった。

(2) 平均的な平日のネットの利用時間

表2

*分母はネット利用者 1938

	30分未満	30分以上1時 間未満	1時間以上3 時間未満	3時間以上5 時間未満	5時間以上
人数	127	364	981	322	144
割合	6.6%	18.8%	50.6%	16.6%	7.4%

ネットの平日利用時間で高校生の全国平均は、3時間5分（内閣府 2014、以下同じ）、3時間以上の利用者が 47.1%である。青森県の高校生の場合 3時間以上は 24.0%で、全国の半分である。この内スマホのみの全国の3時間以上は 39.7%で、スマホ使用が利用時間を押し上げていること示しているが、青森県においてはまだその状況になっていない。ただし、内閣府調査と調査方法が異なるので単純に比較はできない。

また、パト隊の 2012年6月調査（「ネット依存傾向の実態と対策・提言」高校2年対象 n534）の平日のネット利用時間で 3時間以上は 28.8%で増えてはいない。ただし、調査対象が2年生のみと1、2年生の違いはある。

これらの結果からは、スマホの普及事態は全国と青森に異なりはないが、ネット利用時間においては、「全国的にスマホの普及により利用時間が増えている」と異なり、県内では2年前よりも増えていない。なぜこのような結果であるかは断定できない。ただし、半数以上の生徒のスマホの所持時期が中学卒業後という青森県において、生徒の使用始め期の判断力が、高校生徒ということもあり、また、中学までのネットに関する啓発活動や学習による「ネット被害免疫」が形成され、自らセーブが働いているからではないかと思われる。また、保護者にペアレンタルコントロール意識が高まり家庭の教育力が一定程度形成されたと推測できる。しかし、3年前に比べ、小中学生のスマホの利用率が青森県でも急速に高まりつつあるので、このまま推移するならば都市型の状況が来るのは時間の問題といえる。

(3)よく利用するコンテンツ・アプリ

表3 *複数回答あり

*分母はネット利用者数 1938

	メール	プロフ・ブロ グ・ホーム	動画 サイト	Line	Twitter	Facebook	アメーバ	その他 の SNS
人数	365	139	1045	1522	1188	148	73	44
割合	18.8%	7.2%	53.9%	78.5%	61.3%	7.6%	3.8%	2.3%

Skype	Wikipedia	アプリゲ ーム	アプリ以外の ネットゲーム	その他
134	255	1094	119	36
6.9%	13.2%	56.4%	6.1%	1.9%

設問は、よく利用するコンテンツ・アプリである。第1位はLINE (78.5%) (利用率は93.2%)、2位 Twitter (61.3%)、3位アプリゲーム (56.4%)、4位動画 (53.9%) である。ゲームは、アプリ以外のネットゲームを含くめれば62.5%となる。内閣府 2014 調査の区分によるコミュニケーションツールの利用率は89.6%であり、高校生の9割が、ネットが主なコミュニケーションツールになっている。この状況は青森県でも変わらない。他に、内閣府 2014 調査では、ゲーム (71.7%)、4位動画 (78.3%) であった。

第2章 LINE に関する内容

(1) LINE を利用しているか 表4 *分母はネット利用者数 1938

	利用している	利用していない
人数	1805	133
割合	93.2%	6.8%

LINE の利用率はネット利用者の93.2%、全生徒(有効回答数)の92.3%と極めて高いことがわかる。また、前述の設問で、「LINE をよく利用する」は78.5%であった。LINE はスマホ、パソコン、携帯電話等多様な端末で使用できるため、スマホ所持者(1789人)以外も利用している。

(2) LINE で利用している機能 表5 *分母は、LINE 利用者 1805 *複数回答あり

	電話機能	トーク機能	タイムライン	ゲーム機能	その他
人数	449	1801	403	610	10
割合	24.9%	99.8%	22.3%	33.8%	0.6%

トーク(双方向とグループトークを含む)は、ほぼ100%の利用率である。LINE のゲームアプリを利用しているものも33.7%、ネット利用者の約3割はゲームもLINEで行っている。LINE のゲームは、トークグループのメンバーと利用実感を共有できるという特徴があり、「ゲームとトークとのつながりはきつい」(自由記述)のという実態がある。

(3) インターネットの利用時間と LINE の利用時間の比較 後期調査のみ

①インターネットの利用時間 平日 後期調査 *分母はネット利用者数 1363

表6

	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上5時間未満	5時間以上
人数	88	227	652	266	130
割合	6.5%	16.7%	47.8%	19.5%	9.5%

②LINE の利用時間 後期調査

①平日 表7 *分母は、LINE 利用者 1266

	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上5時間未満	5時間以上
人数	354	363	372	118	59
割合	28.0%	28.7%	29.4%	9.3%	4.7%

②休日 表8 *分母は、LINE 利用者 1266

	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上3時間未満	3時間以上5時間未満	5時間以上
人数	233	261	410	197	165
割合	18.4%	20.6%	32.4%	15.6%	13.0%

前述したように、内閣府 2014 調査による平日の 3 時間以上のネット利用者は 47.1%で、青森県の高校生の場 24.0%（後期調査のみは 29.0%）であった。LINE の 3 時間以上の利用率は 14.0%（後期調査）である。3 時間以上ネットを利用している生徒の半分が LINE を利用していることになる。

(4) LINE のトーク機能等を利用するときの返信の時間 *分母は LINE 利用者 1805

表9

	5分以内	10~15分	30分以内	30分以上	時間があるとき	気が向いたら
人数	357	380	194	44	559	271
割合	19.8%	21.1%	10.7%	2.4%	31.0%	15.0%

30分以内を「即レス」者とするれば 51.6%が、一方「時間があるとき」「気が向いたら」の「即レス志向でない」ものの計は 48.4%であり、即レスの対応は、二分されている。強く即レスを求めるものは約 2 割である。

(5) LINE を利用していて不快、不安、嫌と思った体験

表10 *分母は LINE 利用者 1805 *複数回答あり

	1. 既読されても返信がない	2. 知らない相手から連絡	3. 返信が速すぎる	4. 返信が来すぎて自分のことに集中できない	5. line をやっていると会話に入れない	6. グループトークで嫌な書き込み	7. グループから外された・外した	8. 自分抜きにグループを作られた、外した	9. グループトークでメンバーの悪口の書き込み	10. 特になし	11. その他
人数	369	414	140	368	57	45	50	43	42	867	25
割合	20.4%	22.9%	7.8%	20.4%	3.2%	2.5%	2.8%	2.4%	2.3%	48.0%	1.4%

《選択肢番号の項目内容》

- 「既読」されているのに返信がこないことがある時不快になる。
- 知らない相手から連絡がきた時不安になる。
- 相手の返信が早すぎる時不快になる。
- 返信が来すぎて自分が今やっていることに集中できない時いらいらする。
- LINE をやっていると会話には入れないときがあるため不安になる。
- グループトークの書き込みでいやや思いをしたことがある。
- グループから外されてしまったことがある。または外したことがあること。
- 自分抜きにグループを作られたことがある。または、誰かを外してつくったことがある
- グループトークの中で、メンバーの悪口が他のメンバーにより書き込まれていたことがある
- 特に当てはまるものがない。
- その他

表11 トラブルに係わる不快体験

表12 いじめ擬き系の学年別推移・前期調査

全調査 不快体験(質問)項目	トータル 5+6+7+8+9	一つでも選 択した数	LINE 利用 者での割合
トラブル 5.6.7.8.9	237	183	10.1%
いじめ擬き系 7.8.9	135	106	5.9%

前期調査 学年別	7.8 を一つでも選 択の割合
全体	6.2%
1年	9.4%
2年	5.2%
3年	4.1%

LINE を利用していて「特に不快、不安体験のない生徒」が約 5 割で、何らかの不快体験をした生徒が 5 割である。本設問から 2 点、既読問題

とコミュニケーショントラブルにふれる。

第1は、「既読」されているのに返信がないことに不快を持つ生徒が**2割** (20.4%)、逆に「返信が早すぎて不快」「返信が来すぎて今自分のやっていることに集中できずにいららする」が合わせて**3割** (28.2%)である。このように既読に対する考え方は、相反しており、前述の(4)トーク返信時間における「強い即レス者」(表9)も**2割** (19.8%)であることを考えれば、生徒間の共通認識とルールづくりで克服できる課題といえる。また、前期調査設問(7)(表15)の「利用しはじめた理由」では、「既読機能が便利だから」が**13.0%**であるが、設問(8)(表16)の「LINEを使っていて最もよかったと思うこと」で「既読が便利」と思っている生徒は**1.6%**のみであった。これらのデータからLINE創設者の意図が子ども達の中では生かされているとは思われない。

第2は、コミュニケーショントラブルに係わる不快体験者(5.6.7.8.9項目)問題である表11のように、この問題を抱えている生徒は、**約1割**である。ネットいじめに繋がるトラブル(いじめ擬き)である、「グループから外し、外され」、「自分抜きグループの立ち上げ」(「排除のいじめ」)は**2.8%**、**2.4%**、グループトーク内での悪口の書き込み(「飼育のいじめ」)は**2.3%**で、この三つの内一つでも体験している生徒は**5.9%**もいる。この中には、既にネットいじめの段階になっているものも多いと推測される。文部科学省の調査報告で、高等学校のいじめ認知率が**0.1%**(平成25年度)とは相当乖離しているといえる。またこれらのトラブルは、表12のように、**1年生時で約1割弱(9.4%)**であったが、学年が上がるに従い学習して減っている。ここには、子ども達の健全性も見受けられる。

(6)LINE依存とネット依存の比較 後期調査 * ネット依存の調査尺度と計算の仕方は別紙参照

①「line依存」について 下表尺度調査結果 **表13**

		はまっていると感じる	満足するため…	ネットを控える…	落ち着かない、イライラ…	思っていたより長い時間…	人間関係、家族…	嘘をついたことがある…	現実から逃げるために
人数	よくある	346	128	62	43	219	27	26	38
	時々ある	345	226	161	99	326	67	53	70
	あまりない	482	670	684	599	446	538	520	509
	全くない	129	276	395	560	309	669	701	683
	その他	5	7	6	7	8	7	7	7

LINE依存段階	男		女		LINE依存計		ネット依存計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
LINE依存症					3	0.2%	9	0.6%
LINE依存傾向					33	2.4%	89	6.4%
LINE依存傾向予備軍					169	12.2%	373	26.9%

②「ネット依存」について **表14**

		はまっていると感じる	満足するため…	ネットを控える…	落ち着かない、イライラ…	思っていたより長い時間…	人間関係、家族…	嘘をついたことがある…	現実から逃げるために…
人数	よくある	483	351	144	87	474	37	50	108
	時々ある	548	406	304	154	526	92	124	179
	あまりない	325	547	795	723	287	583	568	540
	全くない	21	69	133	407	80	662	630	548
	無記入	2	5	3	8	11	5	7	3

段階	男		女		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
ネット依存症					9	0.6%
ネット依存傾向					89	6.4%
ネット依存傾向予備軍					373	26.9%

キンバリー・ヤングのネット依存尺度8項目簡易版を用いて、ネット依存とLINE依存について調べた。ネット依存症(病気)、ネット依存傾向合計で**7.0%**であり、厚生労働省2013年調査(8%)と類似した。ネット依存の中でLINEが依存の契機と思っている生徒は、**2.6%**で、**約1/3**である。この結果は、先述の平日におけるネットやLINEの利用時間においても青森県は3時間以上の利用者率が全国よりかなり低かったことから推定できる値である。しかし、今後スマホの多機能利用とLINEのゲームアプリの利用が進めば、トーク機能との連結が進み、複合的にLINEのつながり依存が進むことが推測される。

(7) 利用し始めた理由(きっかけ)

①LINEの機能面を中心として **前期調査** *分母はLINE利用者540 *複数回答あり

表15

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
人数	368	70	384	59	143	41	104	92	97	33
割合%	68.1%	13.0%	71.1%	10.9%	26.5%	7.6%	19.3%	17.0%	18.0%	6.1%

《表の番号の項目内容》

1. 周りの友達がみんな利用しているから。
2. 「既読」機能が便利だから。
3. メールよりも気軽だから。
4. スタンプが楽しいから。
5. 画像や動画を簡単に載せられるから。
6. 友達を広げるのが楽だから。
7. 会話をしているような感覚だから。
8. すぐに返信がもらえるから。
9. グループチャットが楽しいから。(様々なグループが作れる等も含む。)
10. その他()

②きっかけの理由を中心として **後期調査** *分母はLINE利用者1266 *複数回答あり

表16

	自分でやりたくなったから	友達に誘われて	家族に誘われて	身近な友達がやっているから	学校での会話についていけないため	仲間に入れてもらえないと感じて	流行に遅れたくない	雑誌等のアプリ紹介をみて	テレビCMをみて	その他	複数回答・無記入
人数	530	261	68	264	6	2	15	6	10	69	67
割合	41.9%	20.6%	5.4%	20.9%	0.5%	0.2%	1.2%	0.5%	0.8%	5.5%	5.3%

利用のきっかけは、前期調査で「周りの友達がみんな利用しているから」68.1%、後期調査で「友達に誘われて」20.0%、「身近な友達がやっているから」20.9%であり、これは、LINEのトーク機能をほとんど利用していることから理解できる。

機能面では、「トークの方がメールよりも気軽だから」が7割であり、後述の設問「LINEとメールの違い」で理解できる。

(8) LINE を使っていて最もよかったと思うこと **後期調査** *分母は LINE 利用者 1266

表 17

	会話が楽しめる	グループで会話ができる	無料通話	情報の早さ	豊富なスタンプ	既読機能が便利	画像・動画を簡単に載せられる	友達を広げるのが楽	その他	複数回答等のため無効
人数	430	240	95	135	17	20	11	18	30	270
割合	34.0%	19.0%	7.5%	10.7%	1.3%	1.6%	0.9%	1.4%	2.4%	21.3%

LINE のよさは、「会話が楽しめる」「グループで会話ができる」である。

(9) LINE のグループトーク (チャット) をやめたくともやめられなかった **後期調査**

表 18 *分母は LINE 利用者 1266

	はい	いいえ	無効
人数	252	1012	2
割合	19.9%	79.9%	0.2%

(10) (9) のトーク (チャット) をやめられなかった理由 **後期調査**

表 19 *分母は(9)でトークやめられなかった人数 252 *複数回答あり

	話に遅れそうだから	暇だから	会話をしなくてはいけなかったから	相手と切れるのが怖かったから	相手とトラブルになるのが怖かったから	トークだけでなく現実の人間関係に支障がでる可能性があるがあったから	話が途切れなかったから	読むと相手に既読表示されるから	その他
人数	10	38	37	18	31	33	126	59	12
割合	4.0%	15.1%	14.7%	7.1%	12.3%	13.1%	50.0%	23.4%	4.8%

LINE のグループトークをやめたいと思った生徒が 19.9%、約 2 割である。注視する理由は、「相手とトラブルになるのが怖いから」12.3%、「相手と切れるのが怖かったから」7.1%、「読むと相手に既読表示が表視される」23.4%と、友達関係の崩れや、トラブルへの展開を危惧しているものである。

(11) LINE とメールの違いについて **前期調査** *分母は有効回答数 580

表 20

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	281	302	32	82	10	8	14	1	35
割合%	48.4%	52.1%	5.5%	14.1%	1.7%	1.4%	2.4%	0.2%	6.0%

《表の番号の項目内容》

1. 『LINE』の方が『メール』より気軽。
2. 『LINE』の方が『メール』より便利。
3. 『LINE』の方が『メール』より確実に返信がもらえる。
4. 『LINE』の方が『メール』より返信が早い。
5. 『メール』の方が『LINE』より気軽。
6. 『メール』の方が『LINE』より便利。
7. 『メール』の方が『LINE』より確実に返信がもらえる。
8. 『メール』の方が『LINE』より返信が早い。
9. その他

総務省調査等で、10 代の対話ツールは、すでにメールより LINE 等が上回っているとのことである。その理由は、「『LINE』の方が『メール』より気軽」48.4%、「『LINE』の方が『メール』より便利」52.1%であり、このデータからくみ取れる。

第4部 LINE問題の考察

考察を調査内容の5つの視点を踏まえて行う。

1. ネットとLINE利用の基礎データ

高校生のネットの利用率は98.8%で、全国傾向とほぼ同じである（内閣府2014では、高校生95.8%）。また、スマホは、青森県の高校生が91.2%、内閣府2014が92.4%。全国のネットの平日利用時間で3時間以上の利用者は47.1%。青森県の場合3時間以上は24.0%で、全国の半分である。内閣府2014調査で見ると、スマホのみの全国の3時間以上は39.7%で、スマホ使用が利用時間を押し上げていること示している。しかし、青森県においてはまだその状況になっていない。ただし、内閣府調査とは調査方法が異なるので単純に比較はできない。

また、パト隊の2012年6月調査（「ネット依存傾向の実態と対策・提言」高校2年対象n534）での、平日のネット利用時間で3時間以上は28.8%であり、2年たっても増えていない。ただし、調査対象が2年生のみと1、2年生の違いはある。

これらの結果から、スマホの普及事態は全国と青森に異なりはないが、ネット利用時間においては、「全国的にスマホの普及により利用時間が増えている傾向」と異なり増えていなかった。なぜこのような結果であるかは本調査のみでは断定できないが次のように推測する。半数以上の生徒のスマホの所持時期が中学卒業後という青森県の状況において、生徒の使用始め期の判断力が高校生ということもあり成熟し、また、中学までのネットに関する啓発活動や学習による「ネット被害免疫」の形成で、自らセーブが働いているからではないかと思われる。また、保護者にペアレンタルコントロール意識が高まり家庭の教育力が一定程度あるからと推測できる。しかし、3年前に比べ、小中学生のスマホの利用率が青森県でも急速に高まりつつあるので、このまま推移するならば都市型の状況が来るのは時間の問題といえる

よく利用するコンテンツ・アプリの第1位はLINE（78.5%）（利用率は93.2%）、2位はTwitter（61.3%）、3位はアプリゲーム（56.4%）、4位動画（53.9%）である。内閣府2014調査の区分によるコミュニケーションツールの利用率が89.6%で、高校生の9割は、ネットを介したコミュニケーションとなっている。この状況は青森県でも変わらない。また、LINEはスマホ、パソコン、携帯電話等多様な端末で使用できるため、スマホ所持者（1789人）以外も利用している。

LINE機能のトーク（双方向とグループトークを含む）は、ほぼ100%の利用率で、LINEのゲームアプリを利用しているものも33.7%、ネット利用者の約3割はゲームもLINEで行っている。LINEのゲームは、トークグループのメンバーと利用実際を共有できるという特徴があり、「ゲームとトークのつながりはきつい」（自由記述）のという実態がある。

2. ネット利用内に占めるLINE利用の状況

（1）ネット利用時間とLINE利用時間の比較

平日の3時間以上のネット利用者は24.0%（後期調査のみは29.0%）で、LINEの3時間以上の利用者は14.0%（後期調査のみ）である。3時間以上ネットを利用している半数がLINE利用者である。長時間化の要因になっている一つがLINEであることがわかる。

（2）ネット依存とLINE依存の比較

ネット依存症（病気）、ネット依存傾向の合計が7.0%であり、厚生労働省2013年調査（8%）と類似した。ネット依存の中でLINEが依存の契機と思っている生徒は2.6%で、約1/3にあたり、ネット依存の大きな要因になっている。しかし、平日におけるネットやLINEの利用時間において青森県は、3時間以上の利用者率が全国の1/2から、ネット依存に占めるLINE利用の割合は少ないと思われる。しかし、今後スマホの多機能利用とLINEのゲームアプリの利用が進めば、トーク機能との連結が進み、複合的にLINEのつながり依存が進むことが推測される。

3. LINEの既読と即レスへの意識

通知を受け返信するまでの時間で、30分以内を即レスとすれば51.6%が、一方「時間があるとき」「気が向いたら」の即レス志向でないものは48.4%であり、即レスの対応は、二分されている。**強く即レスを求めるものは**

約2割である。

「既読」されているのに返信がないことに不快を持つ生徒は2割(20.4%)で、逆に「返信が早すぎて不快」「返信が来すぎて今自分のやっていることに集中できずにいららする」が合わせて3割(28.2%)である。このように既読に対する考え方は、相反している。だからこそ、共生の理念で生徒間の共通認識とルールづくり進めれば克服できる課題といえる。設問(7)(表16)の「利用しはじめた理由」では、「既読機能が便利だから」が13.0%であるが、設問(8)(表17)の「LINEを使って最もよかったと思うこと」で「既読が便利」と思っているものは1.6%のみであった。これらのデータからLINE創設者の意図が子ども達の中では生かされているとは思われない。

4. LINE 利用によるコミュニケーショントラブル

LINEを利用して「特に不快、不安体験のない生徒」が約5割で、「何らかの不快、不安、嫌だを体験した生徒」が5割である。コミュニケーショントラブルに係わる不快体験者(5.6.7.8.9項目)の表11のように、この問題を抱えている生徒は約1割である。ネットいじめに繋がるトラブル(いじめ擬き)である、「グループから外し、外され」、「自分抜きのグループの立ち上げ」(「排除のいじめ」)は2.8%、2.4%、グループトーク内での悪口の書き込み(「飼育のいじめ」)は2.3%で、この三つの内一つでも体験しているものは5.9%もいる。この中には、既にネットいじめの段階になっているものも多いと推測される。文部科学省の調査報告で、高等学校のいじめ認知率が0.1%(平成25年度)とは相当乖離しているといえる。またこれらのトラブルは、表12のように、1年生時で約1割弱(9.4%)であったが、学年が上がるに従い「学習して減っている。ここには、子ども達の健全性も見受けられる。

LINEにおけるネットいじめのパターンは、上記の三つの他に、深夜に攻撃的な書き込みをする、気味の悪いスタンプを送りつける等もあるが、これらは受信拒否で防御できる。

我々が今回の調査で新ためて認識したのは、グループトーク内の「飼育のいじめ」である。LINEの飼育のいじめは、グループのメンバーから誹謗中傷されても反撃はできず、しかし、グループから抜けることはできない。「既読」で読んでいるか確認されるため、見なければ「なぜ見ない」と攻撃されるし、既読がついたならば「なぜレスしない」と攻撃される。でも、抜けたならば、リアルでの報復が待っているからさらに怖い。したがって、昼間だけの飼育のいじめが、深夜にまで及ぶネットいじめは被害者にとって相当辛いものである。この根拠の一つに、第2章(9)(10)(表18)(19)の「LINEのグループトークをやめたくともやめられなかった」と「その理由」で、「はい」と答えた生徒がLINE利用者の2割(19.9%)存在した。また、その抜けられない理由で「相手とトラブルになるのが怖かった」が12.3%(やめられなかった割合)、LINE利用者に換算すると2.6%に相当する。したがって、「排除のいじめ」も含めれば少なくない生徒が、LINE上で今もネットいじめに苦しんでいると推測される。

5. LINEの光と陰

LINEの光としては、「LINEの利用のきっかけ」をみると、第2章(7)の前期調査で「周りの友達がみんな利用しているから」68.1%、後期調査で「友達に誘われて」20.0%、「身近な友達がやっているから」20.9%であり、これは、LINEのトーク機能をほとんど利用していることから理解でき、LINEツールの貢献を示している。

機能面では、第2章(8)の「LINEを使って最もよかったこと」で「会話が楽しめる」34.0%、「グループで会話ができる」19.0%があげられ、また第2章(11)の「LINEとメールの違い」で、「『LINE』の方が『メール』より気軽」48.4%、「『LINE』の方が『メール』より便利」52.1%と答えている。これらの実際として総務省調査等で、10代の対話ツールは、すでにメールよりLINE等が上回っている。

+資料

資料1 ネット依存度チェック 尺度表と計算式

問1. 下記の(1)から(8)の質問項目で、当てはまる番号1つに○をしてください。番号は、

「①:よくある ②:時々ある ③:あまりない ④:全くない」に対応しています。

- (1) ネットにハマっていると感じている。 (① ② ③ ④)
- (2) 満足するために、ネットを使う時間を長くしたいと思っている。 (① ② ③ ④)
- (3) ネットの使用をひかえる、時間をへらすなどしたが、うまくいかない。 (① ② ③ ④)
- (4) 問(3)の行動をしたとき、落ちつかない、イライラなどを感じる時がある。 (① ② ③ ④)
- (5) ネットを使っていて気づくと、思っていたよりも長い時間使っている。 (① ② ③ ④)
- (6) ネットのために、大切な人間関係、学校、行事などを棒にふるうことがある。 (① ② ③ ④)
- (7) ネットのハマり具合をかくすために、ウソをついたことがある。(例:一日中ネットを見ていたが、勉強をしていたとウソをついたことが等) (① ② ③ ④)
- (8) 現実(学校生活、家族など)や不安といった嫌な気持ちからにげるためにネットを使う時がある。 (① ② ③ ④)

問2. 下記の質問項目で、最もあてはまる番号を一つ選んでください。

- (1) ネット(メールなども含む)の1日の平均利用時間(スマートフォンはアプリも含む)はどれくらいですか。
- ① ネットを使っていない
 - ② 30分未満
 - ③ 30分~1時間未満
 - ④ 1時間~3時間未満
 - ⑤ 3時間~5時間未満
 - ⑥ 5時間~7時間未満
 - ⑦ 7時間以上

段階は? 計算の仕方

基準 段階	(A) 問1の八つの質問項目の 選択肢①と②選択数合計と必要 条件	(C) 問2 の利用時間 の選択肢
ネット依存症	①「よくある」が5つ以上。&質問項目(1)と(4)が含まれる	5時間以上を選択
ネット依存傾向	①と②「時々ある」の合計が5つ以上。&質問項目(1)と(4)が含まれる	3時間以上を選択
ネット依存傾向予備軍	①と②の合計が4つ以上。&質問項目(1)が含まれる	3時間以上を選択

質問項目(1)は依存への自覚、(4)は依存の耐性と禁断症状の項目で、依存の核心的な内容

《解説》

問1のチェック表は、アメリカの心理学者 キンバリー・ヤングの20項目の質問票 (Young, KS. (1998) Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery. Wiley.) を踏まえ久里浜医療センターが作成したガイドライン試案の短縮版。

ネット依存傾向予備軍の概念は、大谷良光(弘前大学・2012)が提起したもので、計算の仕方も久里浜医療センター方式を踏まえた大谷の試案である。

資料2 インターネット利用に関するアンケート(後期調査版)

本調査は、インターネットの利用状況を知り、みなさんが安全にインターネットを利用できる環境をつくることを目的としています。研究以外の目的で使用することはありませんので、ありのままにお答えください。個人が特定されることや、第三者に無断で公開することはありません。

該当する項目の番号に○をつけてください。また自由記述もありますので答えられる範囲でご記入ください。ご協力よろしく申し上げます。

弘前大学「ネット&いじめ問題」研究会 会長 大谷良光 (弘前大学教育学部 前教授)

[学年] 1年 / 2年 / 3年 [性別] 男 / 女

I. インターネットの利用状況について

(1) あなたがインターネット(メール、アプリを含む)を利用する際に使用する主な機器(端末)はどれですか。

あてはまるもの全てに○を付けてください(複数回答あり)。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 携帯電話(スマートフォンを除く) | 2. スマートフォン |
| 3. 自分専用のパソコン | 4. 家族と共有のパソコン |
| 5. 携帯音楽プレイヤー | 6. ゲーム機 |
| 7. その他() | |

⇒「1~7」を一つでも選んだ方は次のI-(2)へ進んでください

8. 利用していない ⇒「8」を選んだ方は下のIIへ進んでください

(2) 平均的な平日1日の合計のインターネットの利用時間についてお答えください。

ガラケー・スマートフォン(アプリも含む)・パソコン等全てを含みます。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分以上1時間未満 | 3. 1時間以上3時間未満 |
| 4. 3時間以上5時間未満 | 5. 5時間以上 | |

(3) よく利用するコンテンツ(サイト)はどれですか。あてはまるもの全てに○を付けてください。

- | | | | | |
|---------------|-------------------|------------------|---------|------------|
| 1. メール | 2. プロフ・ブログ・ホームページ | 3. 動画サイト | 4. LINE | 5. Twitter |
| 6. Facebook | 7. アメーバ | 8. その他のSNS() | 9. スカイプ | |
| 10. Wikipedia | 11. アプリゲーム | 12. アプリ以外のネットゲーム | | |
| 13. その他() | | | | |

(4) 下記の①~⑧の各問で、当てはまる番号1つに○をしてください。

	よくある	時々ある	あまりない	全くない・ネット利用しない
① インターネットにハマっていると感じる。	1	2	3	4
② 自分が満足するために、インターネットを長くしたいと思う時がある。	1	2	3	4
③ インターネットをすることをひかえる、時間をへらすなどしたが、うまくいかない。	1	2	3	4
④ 上記③の行動をした時、落ちつかない、イライラなどを感じる時がある。	1	2	3	4
⑤ インターネットをしていて気づくと、思っていたよりも長い時間している。	1	2	3	4
⑥ インターネットのために、大切な人間関係、家族、学校、部活などを棒にふるうことがあった。	1	2	3	4
⑦ インターネットのハマり具合をかくすために、ウソをついたことがある。	1	2	3	4
⑧ 現実(学校生活、家族など)や不安などの嫌な気持ちからにげるために、インターネットをする。	1	2	3	4

(7) LINE でグループトーク (チャット) をやめたいと思っても、やめられなかった経験はありますか。

1. ある

2. ない

→ 下記 ☆(9)へ

(8) LINE でトーク(チャット)をやめたいと思っても、やめられなかった経験がある人にお聞きします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに○、その中で最も当てはまるもの1つに◎を付けてください。

1. 話に遅れそうだから
2. 暇だから
3. 会話をしなくてはいけなかったから
4. 相手と切れることが怖かったから
5. 相手とトラブルになることが怖かったから
6. チャットだけでなく現実の人間関係に支障が出る可能性があったから
7. 話が途切れなかったから
8. 一度読むと相手に「既読」と表示されるから
9. その他 ()

▼ (9) 下記の①～⑧の各問で、当てはまる番号1つに○をしてください。

	よくある	時々ある	あまりない	全くない・LINEをしらない
①LINE にハマっていると感じる。	1	2	3	4
②自分が満足するために、LINE を長くしたいと思う時がある。	1	2	3	4
③LINE をすることをひかえる、時間をへらすなどしたが、うまくいかない。	1	2	3	4
④上記③の行動をした時、落ちつかない、イライラなどを感じる時がある。	1	2	3	4
⑤LINE をしていても気づくと、思っていたよりも長い時間している。	1	2	3	4
⑥LINE のために、大切な人間関係、家族、学校、部活などを棒にふるうことがあった。	1	2	3	4
⑦LINE のハマり具合をかくすために、ウソをついたことがある。	1	2	3	4
⑧現実(学校生活、家族など)や不安などの嫌な気持ちからにげるために、LINE をする。	1	2	3	4

(10) 平均的な平日1日の合計の LINE の利用時間についてお答えください。ガラケー・スマートフォン・パソコン全てを含みます。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 30分未満
2. 30分以上1時間未満
3. 1時間以上3時間未満
4. 3時間以上5時間未満
5. 5時間以上

(11) 平均的な休日1日の合計の LINE の利用時間についてお答えください。ガラケー・スマートフォン・パソコン全てを含みます。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 30分未満
2. 30分以上1時間未満
3. 1時間以上3時間未満
4. 3時間以上5時間未満
5. 5時間以上

▲ (12) 全員にお聞きします。LINEに関することで、今困っていること、以前に困っていたこと、また、LINE を利用していない人で、LINE について思うことや意見がありましたら是非教えてください。

これでアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

連絡先 ◎携帯電話 080-6054-6502 (パトロール隊兼用)
E-mail 4432ootani@gmail.com
○東京事務所 東京都八王子上柚木1694-3 大谷良光方
弘前大学「ネット&いじめ問題」研究会
ファクス 042-676-7405
ホームページ <http://www.hiro-univ-netpat-otani.com/>
(弘大ネットパト隊で検索)